

探訪 ザ カンパニー

694



藤波安勇会長

歯科医院向けに治療用機器や材料を販売する専門商社。創業から102年を迎えた老舗で、医師や歯科衛生士向けの講座を定期的に開催するなど、人材育成にも力を注ぐ。3代目になる藤波安勇会長(75)は「高齢化が進む中、暮らしの質を高める口腔ケアの重要度は増している。健康寿命の延伸にさまざまな角度から貢献できれば」と言う。

藤波会長の祖父・熊太郎氏が1920(大正9)年に創業。当時は歯科器材の大半が

リンケージ藤波

(倉敷市)



リンケージ藤波が実施している歯科医師向けセミナー。全国から参加がある

メモ
所在地 倉敷市加須山(086-420-0001)▽創業 1920年▽設立 74年▽資本金 1千万円▽事業内容 歯科器材卸売、セミナー企画▽売上高 約7億5400万円(2021年3月期)▽従業員 21人

輸入品で、材料不足に悩む医師の声がきっかけだった。戦後期からの歯科医療の発展に伴い業容を拡大し、今では岡山、広島県など約400の取引先を持つ。扱った製品は5千〜6千点に及ぶ上、器具や治療技術の進歩も著しい。藤波会長は「専門性を身に付けるには常に学びが必要。適切な

歯科業界 人材育成に力

メンテナンスと最新機器の活用はこれからの歯科に欠かせない」と強調する。2004年には治療のモデルとなる医院も倉敷市内に開業した。

「物を売るだけでなく、歯科医療の発展にも役立ちたい」という理念の実現を目指すし、30年以上前から続けるのが人材育成をテーマにしたセミナー。歯科衛生士や歯科技工士、スタッフら職種に応じ、歯石の除去や患者対応といったカリキュラムを提供する。医師向けのセミナーは、臨床医を講師に招き、診断が難しい症例の研究を行っており、全国から参加があるという。

社名の「リンケージ」(英語でつながりの意)には、信頼の輪を広げていく、との思いを込めた。藤波会長は「患者が喜ぶ治療を実現するため、時代のニーズに合った商材と知識を提供し続けたい」と話している。

(太田知二)

|| 随時掲載